

# 当別町一体型義務教育学校 「とうべつ学園」校歌を作曲！

現代 いま を い 活 ま きる

読売日本交響楽団チェロ奏者

## 高木 慶太 さん

(当別小学校・当別中学校卒業)



今回は、来年4月開校予定のとうべつ学園校歌の作曲者で、読売日本交響楽団チェロ奏者として活躍されている高木慶太さんにお話をお聞きしました。

### チェロとの邂逅

生まれも育ちも当別。父がトランペット奏者、母がピアノ教室を営む音楽一家の子として生まれました。チェロを始めたのは6歳の時で、最初から音楽家を目指していたわけではなく、家族全員で音楽を楽しむために始めました。

音楽の道に進もうと思ったのは中学1年の夏のこと。池田町で行われた音楽キャンプで、後の師匠となる毛利伯郎先生の演奏を聴いたのがきっかけです。先生が奏でるチェロの美しい音色に感動し、先生のように弾けるようになりたいという欲求が生まれました。その後、先生のレッスンを受けるため、毎月数回東京に通いました。そのため、当時は学校の行事などを休まざるを得ないことも多かったのですが、学校の先生方は理解してくれるばかりか、いつも私のことを応援してくれました。今でも本当に感謝しています。

毛利先生を追いかけるように高校からは単身東京へ。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を卒業後、ドイツのベルリン大学に約2年間留学するなど経験を積み、現在は主に読売日本交響楽団チェロ奏者として活動しています。

### 母校・当別小での演奏会

平成30年9月には母校・当別小学校でチェロ演奏会を開催(写真右)。この演奏会は当別町小中一貫事業の一つとして行われ、中学時代の担任でもある当別中学校の武岡校長(当時)の計らいにより、実現することができました。この演奏会がきっかけとなったのかわかりませんが、昨年9月に校歌作曲の依頼を受けました。作曲は生まれて初めてのことで、最初は少し不安でしたが、母校の校歌を作曲できる機会は二度とないと思い、引き受けさせていただきました。

### 校歌に込めた思い

作り始めた当初から、当別の雄大な大地を思い出し、最初に頭に浮かんだゆったりとした曲調にしたいと思い、作曲しました。音域

も幼稚園から上がったばかりの子から声変りが始まった中学生まで、幅広く歌えるように心がけました。作詞の西下さんとも都度連絡を取り合い、約半年かけて完成させることができました。

完成した校歌のデモ音源を聞かせてもらいましたが、耳なじみも良く歌いやすく、自然に歌った詩も私がイメージしていたものと合致していました。子どもたちには校歌を歌うことを通じて、込めた思いを感じてもらえればと思います。早く子どもたちが歌っているところを生で見たいです。目にしたときは、感動のあまり泣いてしまうかもしれません。

### 終わりなき音楽の旅

音楽に終わりはないと思っています。チェロを始めて30年以上経ちますが、まだ一度も自分の演奏に満足したことはありません。いつか納得のいく演奏ができるよう、表現の幅をさらに広げていきたいです。その意味では校歌を作曲したのも、自分の音楽人生のプラスになりました。今回は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。